

巻頭言

福山平成大学看護学部紀要（第2巻1号）の発刊に寄せて

福山平成大学看護学部
学部長 木宮 高代

はじめに、新型コロナウイルス感染症と闘う医療従事者の方々に敬意を表します。

医療や福祉現場において献身的な努力を続けてくださっている医療従事者の方々、ならびに国民の健康と福祉を支えてくださっている多くの関係者の皆様に、心より敬意と感謝を表します。

福山平成大学看護学部は、2007年4月に開設し、2年後の2009年4月に大学院看護学研究科修士課程開設、2011年4月に助産学専攻科を開設しました。その間、学部・大学院・助産学専攻科の歩みを止めずに今日まで進んできており、多くの卒業生・修了生が巣立っています。これまでの学部の発展とともに、教員、卒業生や修了生は、毎年、多くの研究活動や社会貢献・学会活動に積極的に取り組んでいます。

昨年度は待望の「福山平成大学看護学部紀要」の第1巻第1号を発刊することができました。今回、第2巻第1号の発刊においても編集委員長を中心とし編集委員の皆様、査読者の皆様のご協力により論文としての質の確認を受けられたことです。加えて、福山平成大学看護学部紀要の内容を通して福山平成大学看護学科がどのような研究や教育に取り組んでいるかを伝達する貴重な機会を得ていると考えています。また、看護教育・看護実践における現状や課題を認識し、課題解決や質的向上のための研究の意義や重要性をどのように認識しているのかを示す機会ともいえるでしょう。福山平成大学看護学部紀要第2巻第1号では、6篇の論文が掲載されており、大学や大学院での教育・研究活動の成果を発表しています。

コロナパンデミック、そして国際秩序の脆弱性、少子高齢化の世界的加速により世界中が大きく翻弄されるなか、看護の役割はより一層重要性を増し、将来を見据え、社会に寄与する看護研究が求められています。

福山平成大学看護学部紀要の場が、多くの看護実践者や教育・研究者にとっての研鑽の場であり、研究成果の活動の場となりますようお願い、さらなる発展の期待を込めて、巻頭の言葉といたします。